

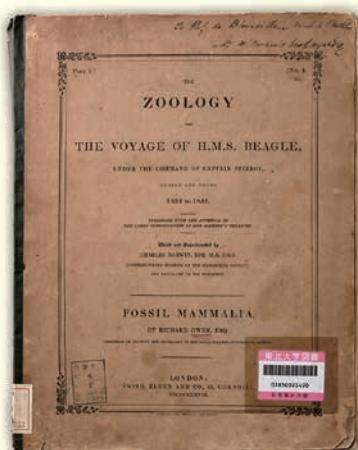
# KIBOKO



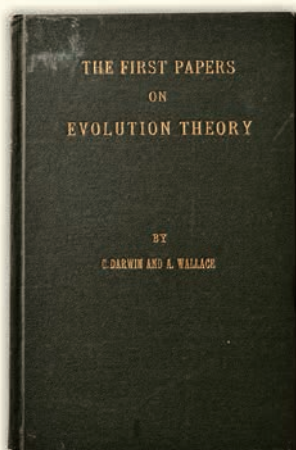
東北大学附属図書館報 木 這子 Vol.44, No.3

秋号

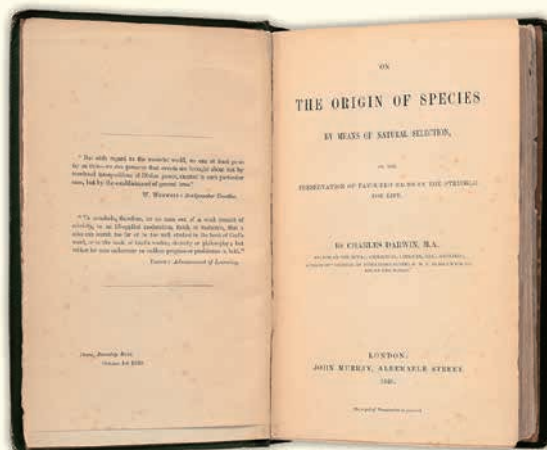
## チャールズ・ダーウィンの著作(本学所蔵)



▶『ビーグル号航海の動物学』初号(1838)



▶『自然選択による進化』抜刷製本(1858)



▶『種の起源』初版(1859)



▶会場の様子

ーチャールズ・ダーウィンの著作を展示しましたー

今年度の企画展では、チャールズ・ダーウィンの貴重なオリジナル本3点を同時展示しました。本学は『種の起源』初版のほか、そこへ至るまでの節目となった公表物2点を所蔵しています。ひとつは、“自然選択説”を初めて唱え、『種の起源』発表のきっかけとなった論文「自然選択による進化」(1858)、もうひとつは世界探検から帰りその成果をまとめた大部の調査報告集『ビーグル号航海の動物学』の初号(1838)です。これらのうち『ビーグル号航海の動物学』には、当時気鋭の生物学者であったリチャード・オーウェンの自筆書き込みがみられます。

### Contents

#### 表紙

チャールズ・ダーウィンの著作(本学所蔵) ..... ①

#### TOPICS

- 令和元年度企画展「進化×深化 ~蔵書でたどる『種の起源』への道のり~」を開催 ..... ②
- クラウドファンディング「漱石の肉筆を後世へ! 漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」スタート ..... ③
- オープンキャンパスにてイベントを開催しました ..... ④
- 中世文学会・日本語学会 2019年度秋季大会記念展示を開催しました ..... ④
- 【特別展示】東北大学の過去から現在へ ..... ④
- チベット大蔵経に関するセミナーを開催 ..... ⑤
- 『工学分館 夏の60冊』展を開催(工学分館) ..... ⑤

- 学術雑誌の動向に関する連続セミナーを開催しました ..... ⑥
- PRRLA総会参加 ..... ⑥

#### SERIES

- くつながりの一冊「数字の国のミステリー」 ..... ⑦
- 教育学研究科修士課程2年 神山 真由 ..... ⑦
- 図書館おもしろごだー ..... ⑦
- 附属図書館本館の地下書庫を眺めながら ..... ⑦
- 附属図書館事務部長 加藤晃一 ..... ⑦

#### Information

- だれでも使える語学学習用個室 「Language Studio」をご存じですか? (工学分館) ..... ⑧
- 電子ブックの試読キャンペーンを実施 ..... ⑧
- 図書館グッズ好評販売中! ..... ⑧



東北大学附属図書館報

# KIBOKO

本誌「木這子(きぼこ)」は、東北地方の方言で「こけし」を意味します。最寄りの附属図書館本館・各分館等で配布しておりますので、図書館の情報誌として、皆さんの学習や研究に、どうぞお役立てください。ご意見・ご感想は lib-som@grp.tohoku.ac.jp 宛にメールでお寄せください。

## 令和元年度企画展 「進化×深化～蔵書でたどる『種の起源』への道のり～」を開催



▶ポスター

選択による進化」(1858)など、ダーウィンの貴重なオリジナル本を所蔵しています。

こうした経緯から、上記の著作を中心に、科学史上、重要な役割を果たした西洋古典書籍を数多く出陳しました。二週間の会期中、多くの方々に来場をいただき、「ダーウィン前後での“進化”の学問の遍歴がよく分かった」「名著の現物が興味深かった」など好評なコメントをいただきました。

また11月5日(火)には、館内フレキシブルワークエリアで記念講演会を実施しました。講師には、近年『種の起源』新訳(光文社古典新訳文庫)を手がけたサイエンスライター・渡辺政隆氏と、本学総合学術博物館助教・小川知幸氏をお招きしました。

小川氏は、ダーウィンに先立つ時代の研究者であるカール・リンネを取り上げ、「植物の結婚」と題して生物分類に関する科学史上の興味深いトピックを披露されました。

渡辺氏は、『種の起源』の起源」と題し、進化論の歴史を概観しつつ、ダーウィンの事績と生涯を丁寧に追う貴重なお話をされました。その豊富な知識とダーウィンに対する深い思い入れを感じさせる語り口に、参加者は熱心に聞き入っていました。

この他、期間中にギャラリートークを二回行い、こちらも多くの参加をいただきました。

附属図書館では、11月1日(金)から15日(金)まで、進化論の歴史をたどる企画展を開催しました。

今年はチャールズ・ダーウィンの生誕210年、『種の起源』刊行160年にあたります。東北大学は、『種の起源』初版本(1859)をはじめ、『ビーグル号航海の動物学』初号(1838)や、自然選択説

を初めて発表した論文「自然

を初めて発表した論文「自然



▶ダーウィンの貴重な著作3点。  
左から『ビーグル号航海の動物学』、  
「自然選択による進化」(抜刷製本)、『種の起源』



▶ジョルジュ・キュヴィエ(1769-1832)らの化石に関する著作



▶エルンスト・ヘッケル(1834-1919)の進化系統樹(左)と、  
生物の形態に関する研究書に収録されたクラゲの図版



▶講演会の様子



▶講師の渡辺政隆氏

## クラウドファンディング 「漱石の肉筆を後世へ！漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」スタート

11月5日(火)より、クラウドファンディングのプロジェクトとして、「漱石の肉筆を後世へ！漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」をスタートしました。支援募集は12月26日(木)23時までです。

クラウドファンディング(crowdfunding)とは群衆(crowd)と資金調達(funding)を組み合わせた造語で、インターネットを通して活動に対する資金を募るしくみです。東北大学は本年よりREADYFOR株式会社と業務提携を結び、本格的にクラウドファンディングの取組みを開始しましたが、その提携後初のプロジェクトの一つでもあります。

今回のプロジェクトのポイントは

- ・漱石文庫をデジタルアーカイブ化し広く公開する。
- ・デジタル化により原資料の利用頻度を減じ、資料の劣化進行を抑える。

の二点です。

漱石文庫には、漱石自身が書き留めた日記や手帳、原稿、ノート、試験問題、手紙などの自筆資料と、漱石の蔵書の二つがあり、蔵書にも漱石自身による多くの書き込みがあります。残された肉筆から漱石の知的な関心や思索の過程、生活ぶりが生き生きと浮かび上がってくる第一級の資料です。漱石文庫が本学に譲渡されることになったのは、当時の本学附属図書館長で、漱石の愛弟子でもあった小宮豊隆の尽力によります。搬入は、1943(昭和18)年から始まり、1944(昭和19)年3月に完了しました。漱石山房があった早稲田南町は、1945(昭和20)年3月10日の空襲で焼けてしまったため、この重要資料は、本学に移されたことで焼失を免れたこととなります。

当館では、この貴重な資料について、学術研究目的の閲覧に供するほか、一般向けの展示も定期的に行ってきました。最近では2017(平成29)年にせんだいメディアテークで夏目漱石展を開催しています。また仙台市と協力して撮影しマイクロフィルムを作成(1997年)、2001(平成13)年にはインターネットでの漱石文庫目録公開を実現し、自筆資料約650点の全頁画像も同時公開しました。

しかし漱石没後100年、漱石文庫受け入れから70年を経

過し、保存と公開のバランスの難しさを感じています。普段は温湿度を管理した貴重資料用の書庫で管理していますが、それでも劣化が進行しつつあります。また肉筆についても、特に薄い鉛筆書きのものは公開が難しくなりはじめています。一方でデジタル公開している画像も20年近く前のものであり、当時の技術的制約から低解像度のPDFフォーマットで、読み取りが難しいケースが多々あるのが現状です。画像で確認できない場合はマイクロフィルムで確認しますが、それでも確認できない場合は原資料の確認が必要となります。

例えば写真の「渡航日記」は、漱石が英国留学の際に日記をつけていた手帳です。1900(明治33)年9月8日の横浜出港以後、10月20日のパリ到着、10月28日のロンドン到着などを経て、12月18日までの出来事が記されています。漱石が当時、見聞きしたものが記されている貴重な資料です。これは長辺10cmほどの小さな手帳に鉛筆でびっしりと書き込まれていますが、綴じがすでにいたんでいて今にも分解しそうな状態であり、紙質も良いものではありません。字も薄れてきています。

その他の資料についても、酸性化による劣化が進んでいるものも多く見られます。今のうちに高精細でデジタル化しておきたいと考え、漱石文庫の高精細での撮影、デジタル化を計画しました。近年、国内外でデジタルアーカイブの普及が進んできていますが、デジタルカメラの高性能化により、肉眼で見る以上に精細な情報を画像から読みとる事が可能になっています。またIIIFなどのデジタルアーカイブの国際的なスタンダードもできてきました。

他方、その費用を附属図書館の限られた予算の中から捻出するのは困難であることから、クラウドファンディングで広く支援を呼びかけることになりました。今回はプロジェクトの第一段階として、まず自筆資料約900点(約5,000コマ)の専門業者による撮影とデジタル化を行います。実施完了は2020年12月を予定しています。蔵書で書き込みが確認されている資料約700点(約17,000コマ)のデジタル化は、プロジェクトの第二段階として、今後取り組んでいく予定です。デジタル化した画像は、デジタルアーカイブとして広く一般に公開し、また二次利用の条件も見直して、より利用しやすい形にしたいと考えています。

今回のプロジェクトが達成できれば、漱石文庫が研究者ばかりでなく、全ての漱石ファンにとって開かれた資料となります。多くの方に漱石の世界をより深く知っていただき、新しい楽しみ方へとつながることを期待しています。

\*) プロジェクトページは以下

<https://readyfor.jp/projects/soseki-library>

\*\*\*) 2019年11月26日に目標を達成しました。

その後セカンドゴールを設定しさらなるご支援を呼びかけています。



▶ 渡航日記

▶ 2019年11月25日時点

## オープンキャンパスにてイベントを開催しました

令和元年度のオープンキャンパスは、7月30日(火)・31日(水)に行われ、全国各地から高校生が本学を訪問し、キャンパスライフを体験しました。

附属図書館本館では、留学生コンシェルジュによる国際交流イベント「海外体験 in 図書館 ここで世界とつながろう！」「Discover ニッポン 留学生が見つめました！」を実施しました。

「海外体験 in 図書館 ここで世界とつながろう！」では、各国の文化や生活についてのプレゼンテーション、外国語に翻訳されたコミックの展示を行いました。また、各国語のミニ講座コーナーも設け、英語、ポルトガル語、中国語、韓国語、ペルシャ語など多彩なラインナップを用意しました。展示企画

「Discover ニッポン 留学生が見つめました！」では、留学生たちが日本国内で撮影した、とっておきの写真を展示しました。

この他にも、エントランスでの展示「東北大学と旧制二高展」や、大学図書館について楽しく学べるクイズラリーも同時開催しました。期間中の来館者数は5,500名を超え、今年もにぎやかで楽しい2日間となりました。



▶留学生コンシェルジュによるプレゼンテーション



▶ミニ講座では、ペルシャ語に挑戦!

## 中世文学会・日本語学会 2019年度秋季大会記念展示を開催しました



▶嵯峨本『伊勢物語』

10月25日(金)から27日(日)にかけて、附属図書館本館多目的室を会場に、中世文学会・日本語学会の秋季大会にあわせた記念展示を行いました。今回は両学会の大会が、本学川内キャンパスを会場に、同時期に行われること

となったため、附属図書館との協力体制で実現したものです。

展示資料は、本学文学研究科の佐倉由泰教授による選定・

解説によるもので、『徒然草』『平家物語』『和漢朗詠集』など、随筆から物語、和歌集の定番のほかに、『倭玉篇』といった古い辞書類なども加え、日本文学と日本語学に関わる幅広い分野の貴重書を目にできる機会となりました。なかには、同じ作品の二種の版本を同時に見比べられるよう、同じ頁を開いて並置するなど工夫されたものもありました。

短期の開催にも関わらず300名を超える来場者を迎え、盛況に終えることができました。

## 【特別展示】東北大学の過去から現在へ



▶ポスター



▶ミニ講演会

9月11日(水)から10月3日(木)まで、附属図書館本館多目的室を会場として、埋蔵文化財調査室、史料館、附属図書館、植物園の合同展示「東北大学の過去から現在へ」を開催しました。

この展示は、ホームカミングデー「懐かしの東北大学」(9月28日(土)、29日(日))との連携企画です。本学が誇る貴重な資料を多数所蔵している学内機関がタイアップ、萩ホールの常設展示「かわうち今昔物語」から一時的に移設展示したパネルと資料

を中心に、各機関が厳選した資料を持ちより、大学の過去から現在までの様子が一覧できるように展示しました。附属図書館からは仙台祭礼行列、アインシュタインの土井晩翠宛書簡などの資料の他、本学出身の芥川賞作家、直木賞作家の紹介もしました。

ホームカミングデー当日には、各機関から約30分間のミニ講演会も行いました(埋蔵文化財調査室「キャンパスの地中に眠るもの：発掘調査からみたキャンパスの歴史」、史料館「30分でわかる東北大学の歴史」、附属図書館「書庫の中のお宝たち：図書館からの東北大学史」、植物園「植物園からみる川内の自然と歴史」)。

アンケートでは、「歴史がわかって面白かった」「歴史ツアーもやってほしい」「卒業生の文学作品(芥川賞、直木賞以外)をもっと見たい」などの感想が寄せられました。

# TOPICS

## チベット大蔵経に関するセミナーを開催

京都大学 白眉センター 特定准教授 菊谷 竜太

9月4日(水)、附属図書館と史料館(アーカイブスセミナー)さらにインド・チベット学研究会共催のもと、一般公開セミナー「人文情報学(Digital Humanities)とインド・チベット文献学-東北大学附属図書館蔵デルゲ版チベット大蔵経に関する現状と課題について」を開催した。

チベット(西藏)大蔵経。仏説部(カンギュル)・論疏部(テンギュル)という二つの区分からなるそれは数世紀にわたってチベットで積み重ねられてきた翻訳事業の集大成である。典籍の多くはインドのこぼからチベット語へと訳されたものであるが、一部チベット人の著作や漢訳などからの重訳も含まれる。写本・版本合わせて十数種類を数える大蔵経のうち最も重要とされるものの一つが東北大学所蔵のデルゲ版チベット大蔵経である。

デルゲとは開版されたカムの一地方を指し、正確な文典的校閲と極めて鮮明な印刷を特徴とする。従来門外不出でありその希少性はデルゲ王が流出を恐れて版工の右手を切り落としたという伝説を産んだほどである。グライラマ十三世の庇護を受けた多田等観(1890-1967)師の尽力によって請来され、



▶赤色に刷られたカンギュル(仏説部・上)と黒色に刷られたテンギュル(論疏部・下)

もたら  
斎藤報恩会の支援により東北大学へと齎された。

多田師は金倉圓照教授とともに総計97,159葉にも及ぶ大蔵経の内容を精査し世界にさがかけて目録化を実現した。その際に割り振られた番号は東北番号(Tohoku number)と呼ばれ、世界的基準として現在も一般的に用いられている。当館が所蔵するデルゲ版はその由来・内容とともにまさしく至宝と呼ぶにふさわしく全体の電子化と公開を目指して現在準備を進めているところである。

## 『工学分館 夏の60冊』展を開催(工学分館)

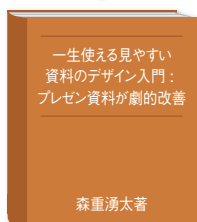
8月20日(火)から9月20日(金)まで、工学分館1階ホールで、昨年度購入した教養図書約60冊を展示しました。

平置きされたそれぞれの図書には図書館員からの推薦コメントが付けられ、多くの来館者が足を止めていました。夏季休業で来館者が少なくなる9月に入ってから、図書は徐々に貸し出されていき、一時はコーナーの大半が貸出中になるほど盛況で、利用者の教養に対する興味関心の高さが窺えました。

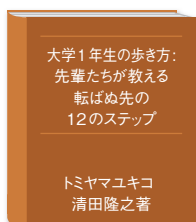
工学分館は、工学系の専門図書に限らず、教養や基礎力の向上に役立つような自然科学関連の図書や人文社会科学系の図書の充実にも力を入れています。皆さまからのリクエストもMyLibraryや2Fの専用BOXで随時受け付けていますので、ぜひ活用してください。

### 展示の一例

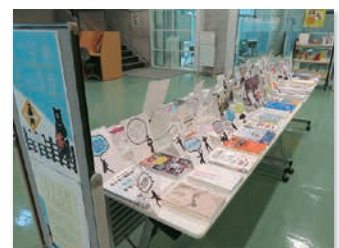
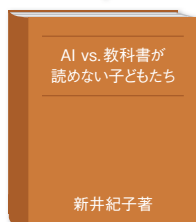
器用に作れるようになるために、最適な資料だと思ふ。



1年生で讀いた、と感じる人にも讀んでほしい。



教育視点の本ではあるがAIを研究する工学系の学生にも参考になると思ふ。



▶展示コーナー全体



▶多くの図書が貸出中に

## 学術雑誌の動向に関する連続セミナーを開催しました

図書館では研究推進部と共催で、2019年4月から9月まで学内6か所で「学術雑誌の動向に関するセミナー 2019：学術雑誌は誰のもの？ 研究力強化とオープンアクセスのリテラシー」を開催しました。

本学で利用できる電子ジャーナルの多くは図書館が取りまとめを行い、全学的基盤経費や部局の負担等によって購入しています。近年はその価格が高騰し、必要な電子ジャーナルの購読が難しくなっています。世界的な動向としては、研究成果が掲載された電子ジャーナルを各大学が購読するという形式から、研究成果を公開したい研究者が掲載料を支払って誰でも読めるようにする形式（オープンアクセス）に変わっていく傾向にあります。一方で、高額な購読料を支払うと同時に、論文をオープンアクセスにするための掲載料も支払っており、全体としての負担が膨らみつつあります。

また、実績を急ぐ研究者につけこみ高額な掲載料を集める「ハゲタカジャーナル」も登場するなど、研究成果を公開

する上で注意が必要な状況が生まれています。

本学としては、世界的な動向及び国内の状況について教職員間で共通理解を図り、研究成果公開の在り方や電子ジャーナル購読の今後などについて議論を深めていく必要があります。

本セミナーでは、これらの話題について早坂忠裕研究担当理事から趣旨説明をいただき（青葉山新キャンパス会場のみ河村純一URAセンター長）、大隅典子図書館長が講演を行いました。学生のみなさんも論文を投稿しようとする際には、投稿先（どの雑誌が適切か）や費用（掲載料が必要か）について担当教員に相談しながら進めることが重要です。



▶セミナーで講演する大隅図書館長

## PRRLA 総会参加

9月1日（日）から4日（水）まで韓国の高麗大学校で開催された環太平洋研究図書館連合（PRRLA：Pacific Rim Research Libraries Alliance）2019年総会に三角太郎情報サービス課長、菊地良直情報サービス課貴重書係長が参加しました。PRRLAにはアメリカ、カナダ、中国、韓国、シンガポール、インドネシア、オーストラリア等の太平洋をとりまく地域から43の大学等の図書館が加盟し、図書館の機能向上にむけた様々な活動を行っています。今年度の総会のテーマは、「Partnerships and/or Collaborations Among Libraries」で、14本の講演があり、ロシア極東とハワイの両地区館の永年にわたる様々な図書館間交流、カリフォルニア大学内の複数校で連携した電子ジャーナル購読戦略、大学内諸部門との連携による学習支援・人材育成事例、大学と地域の連携によるアーカイブ構築事業など多様な話題が取り上げられました。

当館からは菊地係長が登壇、本学のデジタルアーカイブの構築戦略と、国文学研究資料館との連携事業である「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」についての報告を行いました。デジタルアーカイブへの関心は強く、連携事業によって実現できた点などについて質問が寄せられました。

PRRLAは最新の国際状況の情報収集、国際的な情報発信など様々な点で有意義であり、英語を用いたプレゼンテー

ションやディスカッションは準備が大変ですが貴重な経験です。東北大学は、現在、日本からの唯一の参加機関ということもあり、日本における最新の取り組みの積極的な発信につとめてきました。事例報告も一昨年の中国、昨年のアメリカの総会に続いて三年連続となりました。

来年度はハワイ大学での開催が予定されていますが、今後も継続的に参加し、アメリカ、アジアをはじめとする大学図書館等との連携を強めていきたいと思います。

\*) 講演プログラムおよび資料は以下で公開されています。  
<http://pr-rla.org/2019/09/04/2019-annual-meeting-presentations/>



▶菊地係長による講演

SERIES

## 〈つながり〉の一冊 『数字の国のミステリー』

### 不思議な数学の世界へようこそ

教育学研究科修士課程2年 神山 真由

シリーズ〈つながり〉の一冊は、学生の皆さんに、感銘を受けた本や、他の学生さんにお薦めしたい本、ご自身の研究上影響を受けた本などを紹介しながら、つながっていく〈リレーエッセイ〉です。



みなさんは、「ミレニアム賞金問題」をご存じですか。解けたら100万ドルもの賞金が手に入る数学問題です。この本は、世界的ベストセラー『素数の音楽』の著者であるイギリスの数学者、マーカス・デュ・ソートイの著作の一つで、ミレニアム賞金問題に関連する数学のエピソードが紹介されています。

例えば第1章「果てしない素数の奇妙な出来事」では、蟬が地下で過ごす年数が素数となっている謎や、音楽と素数の不思議な関係性など、身近な現象や芸術などと素数とのエピソードが紹介されています。また、第3章「連勝の秘訣」では、宝くじやカジノでの勝利の秘訣が紹介されています。これを読めば、宝くじやカジノで得することができるようになるか

も！？そして、各章の最後には、いろいろなエピソードに関連するミレニアム賞金問題が紹介されています。

この本は、ミレニアム賞金問題に挑戦してお金持ちになりたい、という人にはもちろんおすすめですが、数学はあまり好きではない、という人にも是非おすすめしたい一冊です。おすすめポイントはいくつかありますが、まず、エピソード一つ一つが3ページほどにまとまっている点です。忙しい学生でも、寝る前に少し読んだり、勉強の息抜きに読んだりするのにおすすめです。次に、数学の専門的な知識がなくても読める点です。細かい数学の説明を読み飛ばしても、大まかな内容を理解することができます。また、数学が様々な身近な現象と結びつけられているのもおすすめポイントの一つです。音楽や芸術、化学や地理など一見数学と直接関係がなさそうな事柄と数学が結びつけられて紹介されており、自分の専門分野と数学の意外な関わりや、新しい発見があるかもしれません。

みなさんも、是非、お手にとってみてください。

## 図書館おもしろごだ一



2019年新入生歓迎号から新シリーズ「図書館おもしろごだ一」を掲載しています。

「おもしろごだ一」とは、仙台弁で「面白いね」という意味。図書館職員が執筆する新コーナーで、知って得する情報、図書館バックヤードの紹介、図書業務の苦労話など面白くお伝えするコーナーです。ぜひお楽しみください。

## 附属図書館本館の地下書庫を眺めながら

附属図書館事務部長 加藤 晃一

附属図書館の本館と4分館の資料(蔵書)の合計は約417万冊で、大半は川内キャンパスの本館にあり、その数は約283万冊になります。しかし皆さんが閲覧室で目にするものはほんの一部にすぎず、その大半は1号館の地下書庫にあります。地下書庫は2階にわたり、中央部の階段とエレベータを挟み、その入口は左右に分かれています。降りていくと本が醸し出す独特の「香り」が漂ってきます(大半の本好きにはこの「香り」がたまらないところでしょうか?)。階段を下りて左(エレベータを下りると右)側の書庫が少々時代を感じさせる雰囲気になっています。地下1階は緑、地下2階は薄茶の電動集密書架が並び、ローマ数字と数字を付した分類が掲示されていますが、ここに収められている資料は本館が片平地区にあった時のものです(写真参照)。

東北大学が東北帝国大学として1907年開学であることは関係者なら誰もが知る話、それに遅れること4年、1911年に附属図書館は設置されました。仮住まいが続き独立した図書館本館が竣工したのは1924年、この図書館は現在、その姿を史料館として残していますが、移転前までは隣に5階建ての立派な書庫があり、その総面積は2514㎡だったそうです。竣工前年に関東大震災があったので堅牢な建築物であることは想像に難くないでしょう。

この図書館には附属図書館設置当初からの「狩野文庫」や「ヴント文庫」、「西藏大蔵経」などに加えて、戦中に東京の夏目漱石宅から東北大学へと移った「漱石文庫」が並び、現在では国宝となっている貴重な資料も収蔵されていました。第二次大戦中、仙台市内は空襲に遭い片平キャンパスも例外では

なかったそうですが、幸いにして図書館本館も書庫も被災を免れ(東京の夏目漱石宅は「漱石文庫」移転後に戦災で焼失)、現在に渡って貴重なコレクションが引き継がれて多くの研究者に利用されてきました。これらとともに開学から川内キャンパスに移転するまで、多くの教員や学生から教科書・参考書として身近に利用されたものが地下書庫にある資料です。戦後のものも多く所蔵されていますが、戦火を免れたものも少なからずあることを記憶にとどめていただければ、と思います。

戦中、日本や世界の図書館員(司書)は資料を守るため様々な努力をしました。日本国内では『疎開した四〇万冊』(本館2F学関:UL244/059)からその一端が伺えますし、『ナチスから図書館を守った人たち: 囚われの司書、詩人、学者の闘い』(本館2F学関:GG871/020)ではナチスのユダヤ文化への迫害による略奪から資料を守るうとしたヨーロッパの図書館員達の奮闘を知ることができます。本館地下書庫の一角で、戦火を逃れ今も息づいている資料の歴史の重みと「香り」、そして先達の熱意を感じながら、資料を守り後世に伝えていくという図書館の大切な使命を思い返すオジサン図書館員なのでした。



▶片平にあった附属図書館本館及び書庫(東北大学史料館提供)

# Information

## だれでも使える語学自習用個室「Language Studio」をご存じですか？（工学分館）

Language Studioは、工学分館1階Abelujo（アベルーヨ）の奥にある語学自習用のエリアです。ヘッドセットとパソコンを備えたブースが19あり、しかもすべて個室なので一人で集中してリスニングやスピーキングの練習に取り組めます。またTOEICやTOEFLなどの試験対策用の本（一部を除き全て貸出できます！）をご要望に合わせて充実させるよう努めております。ディスカッションするならAbelujo手前のグループ学習エリア、語学学習なら奥のLanguage Studioなどと使い分けて学習・研究にぜひご活用ください。



▶ オレンジ色の扉が入り口です

### 利用について

- 対象** どなたでもOK（教職員の皆様もぜひご利用ください）
- 時間** 平日9時～20時  
（9月、2～3月の短縮開館時は17時まで）
- 方法** 予約申し込み等不要です。ご自由にお使いください。



▶ 左：ブース  
右：LS内書架

## 電子ブックの試読キャンペーンを実施

紙の本もちろん良いけれど、必要なときにスマホからアクセスできたり、内容の検索ができたりする「電子ブック」もお試ください。図書館では以下のように試読キャンペーンを実施しています。「もっと読みたいかも？」と思った方は図書館に購入希望を出してくださいね。アクセスの実績を確認して図書館でも積極的に買い揃えます！



▶ 図書館ウェブサイトのお知らせ



和図書：10月21日(月)～12月20日(金)

※閲覧できる時間は1回につき5分間  
<https://elib.maruzen.co.jp>

洋図書：11月1日(金)～12月31日(火)

※閲覧時間無制限/印刷・ダウンロード可能  
ただし、短時間で大量のダウンロード等はお控えください  
<https://www.oxfordscholarship.com/>

## 図書館グッズ好評販売中！

図書館が所蔵する「漱石文庫」（夏目漱石が持っていた本など）を始めとする貴重資料をモチーフにした文具を川内北キャンパスの生協店舗にて販売しています。冬休みの帰省のお土産に、卒論完成記念に是非お求めください。



夏目漱石ボールペンセット



狩野文庫ミニクリアファイル



Twitter  
@hagi\_no\_suke



Instagram  
@tohoku\_univ\_lib

